

## 「打球陣地・受球陣地」って何の事？

第8回長老会員テニス合宿、大いに盛り上がる -

村田（10回）記

熱戦が繰り広げられた現役・OB対抗戦の興奮が醒めやまぬ翌24日、25日に長老による恒例のテニス合宿が今年も国立女性教育会館並びに東松山市営コートで行われた。

女性会館は先般の事業仕訳の影響でテニスコートは6面から2面に減らされ、かつ更衣室、談話室などの管理棟は閉鎖されていたが宿泊施設は以前と変わった様子もなく、相変わらず広大な敷地に多くの木々に囲まれ、紅葉も少し始まり素晴らしい秋色を呈していた。

一方、東松山市営コートは昭和42年の第22回埼玉国体のために建設された観覧席つきのオムニコートで整備状況は流石であり、偶には現役に使わせたいものである。

第1日目、女性会館コートに10時に到着し早速、名古屋氏（中46回）の指導でほんと基礎練習のみでみっちり2時間。中でも動いて打つボレー練習は最初足が動かず、ラケットの上、下を無情にも素通り！そのうちに元前衛の名選手、五十嵐氏（6回）、秋山氏（7回）、榎本氏（8回）は次第にタイミングが合ってきたのは流石。

昼食後は1時からやや疲労感があるものの、いよいよゲーム開始。前日の対抗戦で2勝し見事にOB敢闘賞に輝いた秋山、佐々木（13回）組の調子は上々。特に佐々木氏は連敗記録を持っているが、今回は負け知らずで鼻息が荒い。こうして4時30分迄各々7ゲームマッチを4~5試合消化。これこそ平均75歳のパワーである。

夕食迄待ち切れず、部屋で名古屋氏提供のサッポロビールで乾杯。風呂上がりのビールの味は格別。当然話題は前日の対抗戦であるが、そのうちに名古屋氏から中学時代の極めて面白い話を聞く事が出来たので紹介してみたい。

戦争が勃発し昭和18年に学生の球技が御法度になったが、一般はまだ許されていた当時のテニスでどのような言葉が使われたか興味深い。

打球陣地（サービスサイド）      受球陣地（レシーブサイド）  
勝負7回始め（7ゲームスマッチプレーボール）  
駄目（フォールト）                  線外（アウト）      線内（イン）  
陣地交代（チェンジコート）      勝負終わり（ゲームセット）  
国民錬成大会（市民大会）など

皆さん初めて聞く話に吃驚仰天!!

更に浦高で初めて国体に出場した半田氏（6回）の中学時代は校内では裸足で練習しているが、公式試合では靴を履くが途中で慣れている裸足になってプレーをした。とのことでこれも今では考えられない。

夕食後、部屋に戻って西村氏（9回）差し入れのワイン等で痛飲。

翌25日、東松山市営コートへ移動。前日の疲れ（飲みすぎ?）を感じながらも前半は基礎練習、後半はゲームを楽しみ2日間の充実した合宿を終了したが、いつものメンバーである川北氏（6回）、結城氏（11回）、鈴木氏（25回）が事情があり参加出来なかったのは残念であった。

近くの手打ち蕎麦店で珍しく酒抜きで打ち上げをしたが、それにしても麗和会のテニスを介したこうし

た友情は素晴らしくいつまでも続けたいものである。そして病気がりにも拘わらずご指導していただいた名古屋氏並びにコートの手配を願った秋山氏に改めてお礼申し上げます。

参加者（敬称略）

名古屋、五十嵐、半田、秋山、榎本、佐々木、村田

